

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小田急座間センターHT棟	階数	地上2F
建設地	座間市ひばりが丘4丁目26番1号	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	86人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2013年9月10日
敷地面積	5,876 m ²	作成者	戸田建設(株)横浜支店
建築面積	2,027 m ²	確認日	2013年9月20日
延床面積	2,844 m ²	確認者	戸田建設(株)横浜支店



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 88%

上記+ 以外の: 88%

上記+ オフサイト手法: 88%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境 (スコア: 3.0)

Q2 サービス性能 (スコア: 3.4)

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 3.1)

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー (スコア: 3.8)

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.5)

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.3)

3 設計上の配慮事項		
総合 工場の基本機能を満たすことに重点を置きながら、窓の配置、南側の窓上部に庇を設ける、建物形状のシンプル化、植栽帯のレイアウトなど出来る環境対策を細かく積み上げて環境配慮を行う。		その他 0
Q1 室内環境 主用途である工場部分の断熱パネルにより、2重壁を形成。2階の事務所空間は2重折板屋根、外壁にもロックウールを充填し、空調効率に配慮している。 1階は用途上開口は排煙窓程度しか確保しないが、2階の事務所空間は自然光と通風が確保出来るサッシを採用。電気設備もLED照明を用い、エネルギーの効率化を図る。	Q2 サービス性能 24時間稼働になるため、食堂の他、昼を替ったリフレッシュスペースを確保。 食品を扱う工場のため、ホコリ対策を考慮した内装材・巾木、窓回りのディテールを検討。内装についてはホコリ対策の他、使い勝手に応じた床材を選定し使い分けを行う。	Q3 室外環境 (敷地内) 雨水抑制対策については、浸透枳・浸透配管を併用し、敷地内浸透を計画。 植栽帯は外周部に配置した以外にはなるべく、ひとまとめにして、建物利用者に良好なアメニティ空間を提供。当該空間は、車道にも面しており、広場越しの建物は景観の向上にも一役買っている。
LR1 エネルギー 照明器具はLEDを採用	LR2 資源・マテリアル 鉄骨造の構造に、外装を金属サイディングを採用することで、増築や解体時には、材料のリサイクルや、復旧なども容易になっており、無駄な資材が出ないように配慮をしている。	LR3 敷地外環境 植栽計画については、車道側に植栽を設け、周辺の環境に配慮。 建物の配置は道路から離れたところに配し、建物高さも抑えて周辺への圧迫感を抑えている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい